

露地園芸技術の実証研究

土地利用型農業や、大規模施設園芸を展開する経営体の収益性を向上するためには、栽培作物の多様化による雇用労働力の有効利用が求められる。このため、他の生産体系との組み合わせを念頭に置きつつ、露地野菜の生産性を向上するための機械化体系等の実証を行う。

内容

1. 作期拡大のための品目・作型・栽培技術の実証研究

- 耐塩性の強いアスパラガスの導入と安定生産
- 寒玉系キャベツの周年生産に向けた作型・品種の実証
- 加工・業務用ホウレンソウの作型・品種の実証



アスパラ栽培



キャベツ栽培

2. 露地野菜の生産安定・省力・低コスト化のための実証研究

- キャベツおよびタマネギにおける機械化体系の実証
- 畑地用地下灌漑システム（OPSIS）による露地野菜安定生産
- リビングマルチを利用した露地野菜の総合的害虫管理（IPM）の実証研究
- 生育予測技術の活用による産地間連携の実現



リビングマルチによる
キャベツ栽培



低コスト機械化一貫体系